

長野農業農村支援センターだより

令和 8 年 3 号

「トルコギキョウセミナー」閉講式を開催しました



9月7日（月）、長野県農業大学校会議室において「トルコギキョウセミナー閉講式」を行いました。本セミナーは、トルコギキョウの魅力を知っていただき、新規栽培者の確保を図ることを目的に10回の講座を実施しました。受講生の皆様には、定植から収穫までの一連の作業を実際に体験していただきながら、トルコギキョウの栽培技術を学ぶとともに、先輩農家の圃場視察や種苗メーカーの品種展示会への参加を通じて、さまざまな栽培事例や品種について学びました。

どの講座においても、受講生の皆様は非常に熱心に受講され、積極的に質問や意見交換を行うなど、意欲的に知識を深めていました。

セミナー当初は「自分に栽培できるだろうか」「実際に育てているがうまくいかない」という不安の声も聞かれましたが、一連の作業を実際に経験することで、「何とか栽培できそうだ」「実際にやってみよう」と前向きな気持ちに変化し来年から栽培を始めるための準備を進めている受講生もいます。本セミナーの目的である新規栽培者の確保に向け一歩前進ができました。

発行 長野農業農村支援センター 技術経営普及課

〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1

電話 026-234-9536 FAX 026-235-8393

Eメール nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/nagachi/nosei-aec/index.html>

目 次

○農作物の生育状況	1
○特集「あんずの魅力発信セミナー」	3
「鳥獣害について」	5
○新規就農者の紹介	7
○地域のできごと	8
○その他	
クビアカツヤカミキリについて	11
トルコギキョウ見学会について	12
盗難防止について	14
雑草イネについて	15

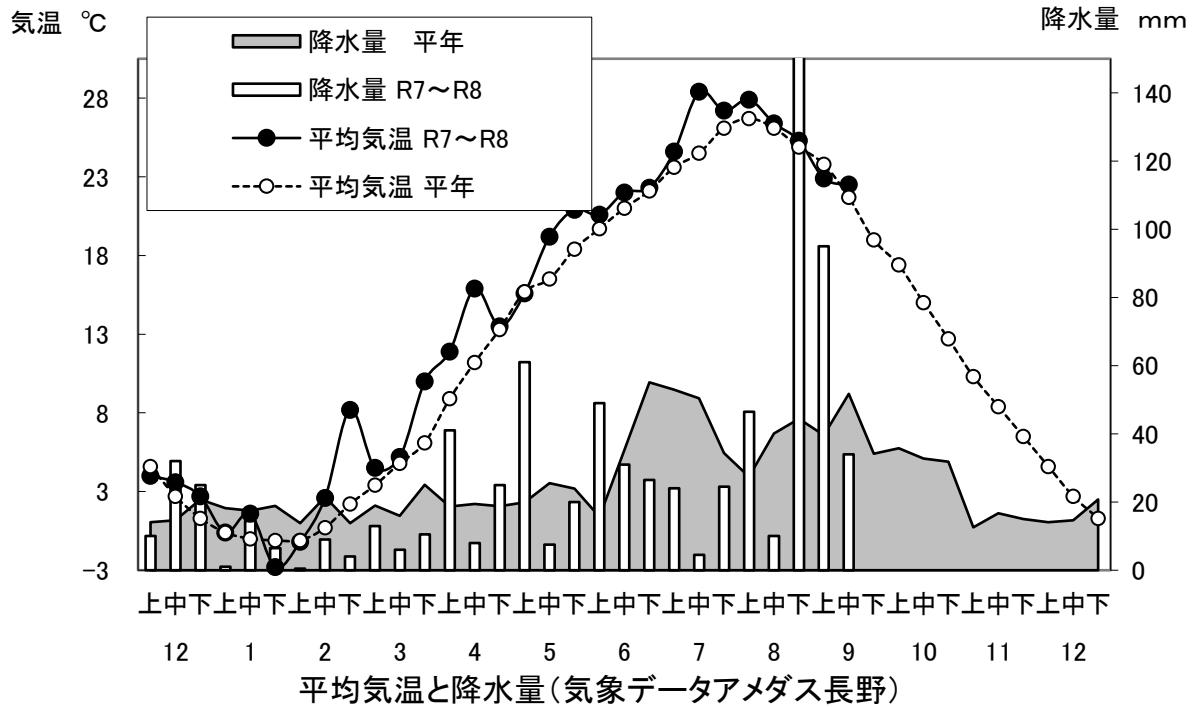


当センターＨＰ

農作物の生育状況（9月15日現在）について

令和8年9月15日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 水稻

前年と比較して出穂期は 2～7 日程度早まり、その後の成熟期も平年より 2～3 日程度早く推移した。早生品種では 8 月下旬から収穫開始が見込まれていたが、降雨の影響により収穫作業の遅れが全般的にみられる。倒伏は前年より少ない状況であるものの、断続的な降雨により倒伏が助長されている。また、はぜ掛けでは降雨による穂発芽の発生が懸念されるほか、収穫の遅れによる品質低下も懸念される。

(2) 大豆

麦後は種の大豆は、8月上旬までに播種がおおむね完了し、現在は子実肥大期を迎えている。前年に干ばつの影響を受けたほ場では、8月に播種を行ったほ場もみられる。

干ばつの影響により草丈が短く、生育が抑制される傾向にあったが、8月下旬以降の降雨により、明渠排水等の対策が実施されていない排水不良ほ場では、病害の発生が目立っている。

(3) ソバ

秋ソバはは種がおおむね完了し、出芽も良好で、現在は乳熟期を迎えている。一方で、播種直後に湿害を受けたほ場では、湿害による出芽不良が見られている。また、降雨の影響により倒伏しているほ場も散見される。

【果樹】

(1) りんご

着色良好で、肥大も順調である。生育は数日早まっており、地域によっては、秋映の収穫が1週間早まっての収穫が予想される。病害では、褐斑病の発生が目立っており、炭疽病も散見されてきている。

(2) ぶどう

ナガノパープルの収穫は概ね終了した。黒系は全般的に降雨が少なかった影響で糖度、着色は良好となった。8月下旬からの断続的な降雨によりシャインマスカット、クイーンルージュ®等で裂果が発生している。シャインマスカットでは糖度上昇がやや停滞している。クイーンルージュ®は着色良好となっており、糖度も順調に上昇している。着色先行となっているため、内部品質が外部品質の仕上がりにやや遅れる状況となっている。

(3) なし

「南水」は収穫期を迎えており、肥大はほぼ平年通りとなっている。8月下旬から続く曇天・降雨により、糖度が若干低い傾向となっている。昨年と同様日焼けやカイガラムシ類による被害も見られている。

(4) 核果類

極晩生種を除いて収穫は終了した。川中島白桃などの晩生品種については、内部品質は良好なもの着色不良や過熟等によりロス果も例年よりあった。また、シンクイムシの被害が平年より多くなった。シナノパールについては、成熟が平年より5～7日程度早まり品質も良好。昨年は出荷のなかった「麗玉®」についても16日から出荷開始予定。

【野菜】

(1) アスパラガス

平坦部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型はいずれも立茎中。夏秋収穫中である。収穫打ち切りは9月下旬頃のは場が多い。一部で斑点病・茎枯れ病の発生、ハウス内においてはアザミウマ発生あり。

(2) 果菜類

キュウリ

抑制作型のキュウリが収穫後半となっている。日照不足の影響か夏秋栽培の露地について収穫終了。

ピーマン

露地ピーマンにおいて、日照不足により草勢が落ち早期に栽培終了が懸念される。

【花き】

(1) トルコギキョウ

抑制作型の6月下旬～7月上旬定植のものについては、収穫最盛期となっている。7月下旬定植のものについては、草丈40～50cm程度。近年お盆以降も、高温傾向により遮光資材を外すのが遅れ気味となっている。早期着蕾、枝数の減少傾向。一部の品種でチップバーンがみられる。

【畜産】

(1) 牧草

7月から8月中旬までの降雨が少なく1番草収穫後の生育が悪かった。加えて8月下旬からは降雨が続き、2番草の収穫ができていない。

(2) デントコーン

9月16日ごろでミルクラインが1/3程度まで進んでおり、黄熟期初期を迎えている。降雨が続いているため、刈遅れが懸念される。

あんず魅力発信セミナー

8月11日（火）に千曲市役所にてあんず魅力発信セミナーを開催しました。参加者は学生、加工業者、地域住民や県内外のあんずファンの方など 93 名と多くの方に参加いただき、盛大な会となりました。

1 あんずの魅力についての講演会

講演会では、森食品工業株式会社品質保証部企画開発課課長の山川満氏と学生団体コレ買い代表の野口拓朗氏からあんずの魅力についてご講演いただきました。山川氏からは加工におけるあんずの魅力について、加工の特性や品種についてお話しいただいた。野口氏からは、県外から見たあんずの里の魅力についてお話しいただいた。

参加者からは、あんずの良さや味以外の魅力について知ることが出来てよかったという意見があった。



写真1 講演会の様子

2 あんずの加工品の試食

あんずの加工品の試食会を行った。試食品の提供は、地元の加工業者である工房アプリコ、株式会社森食品工業、株式会社横島物産、株式会社デザートランドリンゴの木から提供いただいた。それぞれ工房アプリコから干しあんず、森食品工業からあんずの杏仁豆腐、横島物産からあんずラスク、リンゴの木から丸ごとあんずジュレを提供いただいた。参加者は、グループワークを行いながら、試食をした。

こんなに色々な加工品があることに驚いている参加者や各々の好みの商品について参加者同士で意見交換している場面がみられた。



写真2 当日提供された加工品

3 グループワークの開催

グループワークでは、7名ごとにグループになり、計13グループでグループワークを実施した。テーマは2つ用意し、テーマ1では、「あんずの魅力について」意見交換を行った。味以外に花や果実がかわいいなど視覚的な意見や花見としての観光資源になるなどいろいろな意見が出された。テーマ2では「あんずの産地維持に向けてどんな取り組みが必要か」について話し合った。上山田温泉とのコラボやPRについての意見が多く出された。参加者からは、あんずの栽培や観光資源としての魅力を知ることが出来た、学生と意見交換する機会は普段ないので、意見を聞けて良かったとの感想をいただけた。

今回のグループワークで出た意見については、あんず産地維持に向けた活動に活かしていく予定である。



写真3 グループワークの様子

効率的な鳥獣被害対策について

秋の収穫期を迎え、鳥獣害対策をまとめたので、参考にしてください。今後、庭先果実や収穫後の廃果などを野外に放置し、野生鳥獣をおびき寄せることがないようにしましょう。

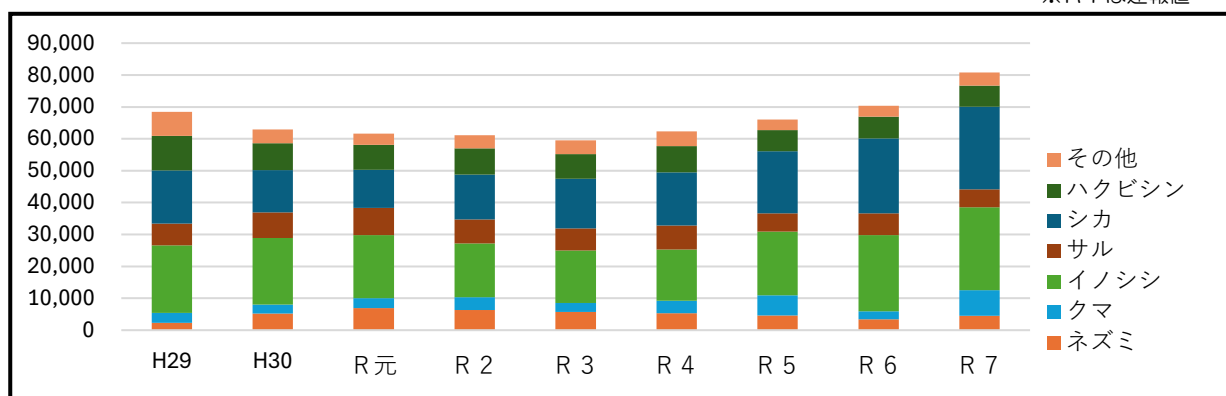
1 農作物の現状

令和7年度の長野管内の農作物被害は、被害金額が107,847千円で、前年比107.3%でした。

主な被害鳥獣は、被害額の大きい順にイノシシ、ニホンジカ、カラス、クマ、ハクビシンで、獣類被害の約82%がイノシシ、ニホンジカ、クマ、ハクビシンとなりました。

長野管内の主な獣種による農作物被害金額の推移 (単位：千円)

※R7は速報値



長野農業農村支援センター取りまとめ

2 鳥獣被害対策の基本的な考え方

野生鳥獣による農作物の被害防止対策の第一歩は、加害獣の特定です。加害獣により対策が異なることから、加害獣の特定は対策の重要なポイントになります。

次に、被害対策を講じるわけですが、対策には大きく分けて3つの方法が考えられます。①個体数管理(野生動物の数を減らし被害を減らす)、②被害防除(電気柵等で大切なものは守る)、③環境整備(野生動物を引き寄せる原因をなくす)です。

駆除だけで済めばよいのですが、①個体数管理だけでは十分な効果を上げることが困難で、②の被害防除と③の環境整備を適切に組み合わせた総合的な被害対策を効果的に実施することが重要です。

また、これらの対策は、集落単位とする対策で進めることが効果的で、「野生鳥獣に負けない集落ぐるみの総合的な被害対策」を進めることが重要です。

3 加害獣の特定

加害獣を特定するには、残された「食痕(食べ跡)」、「足跡」、「フン」の3つの手がかりが重要です。

農研機構※の「鳥獣害痕跡図鑑」などの資料を参考に、被害の特徴から加害獣を推測するのも有効です。

目撃情報や過去の被害実績から概ね特定できますが、中型獣など加害獣が不明なまま対策される事例が見られるので、留意が必要です。また、被害現場に自動撮影カメラを設置すると、加害獣の特定に加え、被害時間や侵入経路等も確認できます。

中型獣の足跡の特長

【タヌキ】

- ・約4×3cm
- ・4本指で犬に似た足跡
- ・指先に爪の跡がつくことが多い



【ハクビシン】

- ・約5×4.5cm(前足)
- ・丸い手のひらに短い5本指
- ・爪の跡はつきにくい



【アライグマ】

- ・約5.5×6cm(前足)
- ・指は長く、5本指で人に似た足跡
- ・指は長い
- ・指先に爪の跡がつく

※農研機構：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

4 被害防除

被害対策には、「物理的な防護」と「適切な追い払い」の2つの対策が考えられます。

現在、最も有効な対策とされているのが、電気柵等の防護柵の設置です。加害獣の特性（跳躍力、掘る力、器用さ）に合わせて、適切な防護柵を選びます。例えば、イノシシであれば、下部に隙間を作らない、鼻先が当たる高さに電気柵の線を張る、などが防護柵設置のポイントとなります。

また、メンテナンスも重要で、定期的に電気柵の電圧点検等を行ってください。電気柵の電圧は6,000V以上維持する必要があります。草が電線に触れると漏電し、電圧が下がって効果がなくなりますので、電気柵直下はもちろん周囲の草刈りを定期的に行います。

獣種別の主な対策資材

獣 種	主な特性（習性・能力）	主な対策資材	設置のポイント
イノシシ	突進力が強い 鼻先で物を押し上げる 1m弱を飛び越える。	トタン板（金属） ワイヤーメッシュ 電気柵（2～3段）	下部に隙間を作らない。 鼻先が当たる高さに電気柵の線を張る。
シカ	1.5m以上を飛び越える 柵の下をくぐる。	金網柵（高さ2m以上） 電気柵（多段張り）	柵がたるまないよう強固に張る。 高さを十分に確保する。
サル	電線を掴んで飛び越える。 手先が器用で柵を登る 高い木から柵内に飛び込む	電気柵（ネット複合型） 防護柵（忍び返し付き）	支柱を登らせない対策や上部に電線を 配して触れさせる工夫が必要。
クマ	よじ登る。 物理破壊、隙間掘りや柵下 掘りをする。	電気柵（3～4段）	イノシシ同様、鼻を狙い低めに設定。 手前に掘削防止線を張る。
ハクビシン アライグマ	狭い隙間を通る 木登りも得意	目の細かいネット 電気柵（微細メッシュ併用）	数センチの隙間もくぐるため、地面との 隙間やネットの継ぎ目を完全に塞ぐ。

5 環境整備

環境対策の基本は、エサとなるものを放置しないことです。収穫残さ（クズ野菜など）や放任果樹を畑に放置すると、獣を呼び寄せる原因になります。

例えば、クマは、数キロ先からでも匂いを嗅ぎつけてやってきます。人間がエサと思っていなくても、クマにとっては魅力的な食べ物が人里には溢れています。庭先のカキ、クリ、イチジクなど、収穫せず放置された果樹は、野生鳥獣を呼び寄せる最大の原因です。「食べる分だけ収穫し、残りは早めにすべて落とす」か、管理できない木は思い切って伐採します。

次に、畑の周囲の草刈りを徹底し、獣が身を隠せる場所（藪など）をなくし、見通しをよくすることが重要です。

畑単位で対策しても、隣の畑に被害が移るだけなので、山林と畑（集落）の境界を整備するなど、地域全体で環境整備を行うことが重要です。

加害獣がサルの場合、山から集落の畑に向かって伸びている木の枝は、サルの「架け橋」になります。畑や防獣柵に覆いかぶさるような枝は切り落とし、木からの飛び込みにより侵入されるのを防ぎます。

長野地域管内の
新規就農者紹介!!

かんはやし ひかる
須坂市 神林 輝 さん



自己紹介

- ・就農1年目。44 歳。
- ・ぶどう約 80a
(シャインマスカット、
クイーンルージュ®、
巨峰)
を栽培しています！

➤ 就農のきっかけ、研修・就農までの経緯

元々両親が須坂市で兼業農家としてりんごや桃を栽培しており、農業は身近にありました。印刷業界で会社員として22年間働きましたが、「ものづくりをしたい」「自然の中で仕事をしたい」という思いがだんだん強くなり、造園業を経て、農業の道へ進むことを決めました。

就農したいと近所の人に話をしてみると須坂市役所農林課の存在を知ることができ、市役所へ相談に行ったところ、ある農家のもとで1年間雇用就農して研修できることとなりました。その農家が父のこともよく知っていたこともあり、すぐ打ち解けられて栽培技術についてしっかり教えてもらうことができました。その研修先農家と出会えたことは、この地で農業をしていくうえで大きな財産になったと思っています。

➤ 就農1年目を振り返って、今後の課題・展望

今年は、一気に花が咲いて房切りが間に合わず、園地の一部を実にできませんでした。そこからすぐに友達・後輩・親戚・・・など人手を集めるために奔走し、以降の作業は何とか乗り切りましたが、来年も同じように手伝いに来てくれるとも限らないので、どのように人手を確保するかは来年に向けた課題です。

まずはぶどうの作業の効率化、ロスを減らすことを目指し、ワッサーと桃も育成中なのでそれらもあわせて将来的には直売もしていけるよう、着実に農業経営をすすめていきたいです。

地域のできごと

信州の郷土食講習会を開催しました🍆

8月26日に鬼無里活性化センターで、農村生活マイスターや農村女性ネットワーク会員など、食文化の伝承に興味のある方を対象に、鬼無里で古くから培われてきた「乾燥野菜」の知恵と技術について学ぶ、信州の郷土食講習会を開催しました。

山々に囲まれた鬼無里では雪深い冬の間でも季節の農作物や山菜を食べられるように、上手においしく乾燥させる方法を培ってきました。農村生活マイスターの久保田冷子さんを講師に、カボチャやナスなどの乾燥方法ともし方・食べ方を実際に調理しながら学びました。

和気あいあいと参加者同士の交流も行われていました。



(地域第一 矢崎)

飯綱町 フロのりんご農家塾を実施しています🍏

令和7年5月から、飯綱町、JAながの飯綱りんご部会、農業農村支援センターが連携して、りんご栽培の基礎から応用までしっかりと学べる講習会を実施しています。

参加者は新規就農の方、定年帰農の方、親元を引き継ぐ方等様々ですが、「りんご農家で頑張っていきたい」という意欲にあふれた方々です。

9月8日は通常の座学と併せて、(株)ショーシンさんに講師を務めていただき、スピードスプレイヤーの基本から実際に動かす際に注意することやメンテナンス方法など、実践的な内容も含めた講義が行われ、参加者から活発に質問が出ていました。

今後は、剪定の実技や実施の経営する際の品種構成のポイントなどの講義を行い、参加者のレベルアップを図っていきます。



(地域第一 小林)

クイーンルージュ®適期収穫研修会を開催しました！

長野県オリジナルぶどうの「クイーンルージュ®」について、ブランド価値の確立に向け、出荷品質基準を遵守いただくため、9月2日に適期収穫研修会を開催しました。本年は昨年と比較し7月下旬から8月上旬は気温が低く推移し、8月はまとまった雨もあったこともあり、参加者から現時点での着色は良好との声が聞こえました。しかしながら、糖度の上昇は遅いため、外観品質と内部品質をしっかりと確認して出荷をするよう目合わせをしました。

参加者からは、着色向上や安定化していくための作業等について積極的な質問も多く出され、数週間後の出荷を目指して頑張ろうという意欲が高まったかと思います。引き続き品質基準を遵守し「クイーンルージュ®」の出荷をお願いします。



(地域第一 黒柳)

マイスター更埴支部視察研修を開催いたしました。

7月22日、千曲市大田原地域の「やまぶき食堂」において視察研修を開催し、会員16名と講師の大林美恵子さんが参加しました。

研修では、はじめに大林さんから「やまぶきの会」について説明をいただきました。やまぶきの会は、平成5年に大田原女性農業者セミナーの受講生22名によって設立されたグループで、地域の食文化の継承などに取り組んでいます。

また、会のこれまでの活動や、やまぶき食堂の歩みについても紹介していただきました。やまぶき食堂は平成10年8月にオープンし、開店

当時は200人を超えるお客様が訪れるほどの盛況ぶりであったとのことでした。地域の食材を活用した手打ちそばや郷土料理は、多くの人々に親しまれてきました。

説明の後には、やまぶき食堂自慢のそばをいただき、参加者同士で交流を深めました。

やまぶき食堂は長年にわたり地域住民や来訪者に愛されてきましたが、本年11月をもって閉業する予定です。しかし、大林さんからは「やまぶき食堂が閉業した後も、やまぶきの会として地域の食文化を伝える活動を続けていきたい」とのお話があり、地域への思いと今後の活動への意欲が感じられました。

(地域第二 竹内)

新規就農者激励会を開催しました

8月7日に、新規就農者を激励し農業者同士の交流を図るため新規就農者激励会を開催しました。最初に新規就農者の皆さんに自己紹介をしてもらった後、記念品の贈呈を行いました。また、講演会では農研機構農業機械研究部門の方を講師に招き、農作業安全について講演いただきました。事故事例を紹介していただきながら、事故を起こさないためにはどのような対策がとれるかを学ぶことができました。後段のグループワークでは、これまでがんばってきたことやこれからがんばりたいことについてグループに分かれて話していただきました。これまでの自分の営農状況を振り返り、今後何に取り組むかを考えるいい機会になったと思います。



(地域第二 岩崎)

農村女性ネットワークさかき視察研修 信濃町を訪れました

7月29日に農村女性ネットワークさかき視察研修を実施し、会員7名と事務局（坂城町、長野農業農村支援センター）3名で信濃町を訪れました。

株式会社黒姫和漢薬研究所に訪問し、会社の歴史、薬草の効果、ハーブティーの加工方法を学んだ後に、工場内を見学し、最後に会員の皆さんが一番楽しみにしていたハーブティー作りを行いました。体の不調に合わせて薬草をブレンドしました。

信濃町の冷涼な気候の風土、会員同士の会話、ハーブティーを通して参加者の皆さんはリフレッシュできていたようです。今後も事務局として支援を行います。



（地域第二 竹ノ内）

農業経営者協会上高井支部 農業振興懇談会を開催しました

7月24日に、県農業経営者協会上高井支部の全体会を須坂市駅前「福田屋」で開催しました。全体会では今年度の事業計画の内容検討や確認が行われます。この会議を上高井支部の活動を知っていただく良い機会ととらえ、今回は会員に加えて新たに入会をお誘いしている5名の方にもご参加いただきました。

全体会では、例年行っている支部交流会や研修会、上越市でのマルシェ販売に加え、初の試みとして、須高地区の青年クラブやマイスターの皆さんとの交流会の開催企画について、会員の合意が得られました。後段では懇親会も合わせて行い、信州プレミアム牛肉に舌鼓をうちながら、当センター職員も交え温かな交流を深めました。



（地域第三 奥出）

あなたの畑の核果類(もも・プルーンなど)で、 きくず(フラス)がでていませんか？

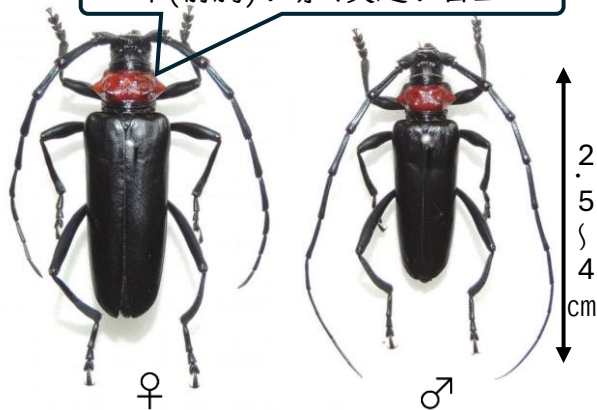
うどん・かりんとう状の
フラスが大量に排出



提供:埼玉県環境科学国際センター

クビアカツヤカミキリ成虫

ムネ(前胸)が赤く突起が目立つ



提供:埼玉県環境科学国際センター

クビアカツヤカミキリが確認されました。 発見したら踏みつぶして通報を！

幼虫が核果類(もも・スモモ・プルーン・ウメ・オウトウ)等の果樹に食入し、甚大な被害(枯死)を生じます。早期発見・早期防除が大切です。

コスカシバのフラスと比較して大粒
うどん状に連なり大量に排出される



提供:埼玉県環境科学国際センター

参考:コスカシバのフラス
小粒で少量 樹液が混じる場合が多い



農地で発見した場合は下記連絡先までご連絡下さい。

- ・長野県農業試験場 病害虫防除部 (026-248-6473)
- ・長野県長野農業農村支援センター (026-234-9536)

クビアカツヤカミキリは**特定外来生物**に指定されています。

生きたまま運んだり、飼育することは禁止されています。

花き栽培に興味がある人はぜひ！！ トルコギキョウ栽培見学会

農業初心者、未経験者も
大歓迎！！
お気軽に参加OK！

参加費無料！！
2か所開催！！

📌開催日時・集合場所

①千曲市内開催

令和8年9月26日(土) 午前9時～10時30分
JAながのアグリサポート上山田
千曲市上山田温泉4-15-11

②長野市内開催

令和8年10月10日(土) 午前9時～10時30分
JAグリーン長野営農センター
長野市篠ノ井布施高田944-1

📌申込み締め切り ①9月22日(火)先着20名
②10月2日(金)先着20名

※集合後、見学ハウスへ移動します。

当日の連絡先:070-4438-5376

長野県は、トルコギキョウ栽培発祥の地！
全国からも注目される、高い技術力があります。
そんな素晴らしい花を直接！身近に！無料で！
見学できます。

トルコギキョウとは・・・

バラのように華やかで、ふんわりとした八重咲で可愛く、
カラーバリエーションがとっても豊富な花✳
アレンジメントやブライダルなど幅広く活躍中！

～こんな方にオススメ！～

🌸 「トルコギキョウってどんな花？」と思っていたら、まずは見
学してみましょう👀

🌸 定年退職後に何か新しい事初めてみたいなあと思っている方。

🌸 実際の栽培ハウス内を見学できるので、栽培のイメージが深ま
ります。

🌸 先輩生産者から、作業の流れやお金の話など、直接気になる点
が聞けます！

お申込み

参加ご希望の方は、下記の二次元コード、FAX、メールから
住所、氏名、連絡先をお知らせください

問合せ先：長野農業農村支援センター 藤沢

電 話 026-234-9535 FAX 026-235-8393

メール nagano-aec@pref.nagano.lg.jp



①申込み締め切り 9月22日(火)

②申込み締め切り 10月2日(金)

STOP!

農作物盗難



～大切に育てた農作物を盗難から守りましょう～



ポイント1 農作物の保管・管理

- 定期的な見回りを行いましょう。
異変があったら、すぐに警察に通報しましょう。
- 不審者の特徴、不審車両の色・ナンバーをチェックしましょう。
- 腕章や農作業車両にステッカー等をはるなど、農作業従事者である目印をつけましょう。



ポイント2 園地への侵入防止対策

- 園地にネットや柵を設置しましょう。
- 「盗難注意」「立入禁止」等の看板やのぼり旗を設置しましょう。
- 防犯カメラやセンサーライトを設置しましょう。

長野県農政部・長野県警察

※本製品は、皆様から寄せられた「ふるさと信州寄付金」を活用しています

「雑草イネ(赤米)」の混入にご注意ください！

令和8年 長野農業農村支援センター

雑草イネ(赤米)とは、玄米が赤褐色の雑草化した「イネ」です。

紫米などとは異なり、簡単に脱粒します。

雑草化していても「イネ」のため、通常の対策ではうまく減らすことができず、防除にはコツが必要です。通常の玄米に混ざることによって品質を落したり、減収させてしまいます。



ノゲが赤く色づいている



玄米の色は褐色



籾が褐色を帯びるものも

雑草イネの怖いところ・・・

○ 数年で一気に広がり栽培イネの品質・収量が低下します

地面に落ちた籾は、翌年の発生源。放っておくと数年では場一面に広がります。

○ 一度広がると根絶が困難

地域内で広がると、絶やすまでに長い年数と多大な労力が必要となります。

雑草イネの対策は・・・？

○ 発見したらすぐに対策！

一度広がると、絶やすまでに長い年数と多大な労力が必要となります。

○ 秋起こしはしない

収穫後、秋の田起こしはしません。地面に落ちた種を冬の低温で凍み枯します。

○ 代かきは丁寧に 移植時期は遅めが良い

複数回の丁寧な代かき、6月以降の移植が、雑草イネ対策には効果的です。

○ 効果のある除草剤を使用する

「効果のある除草剤」は、JAや支援センターに聞きましょう。

効果のある除草剤を、代かき直後から7～10日間隔で3回使用します。

○ 発生している田んぼの作業は一番最後にする

発生拡大を防ぐために、機械等を通じて種を他の田へ持ち込まないようにする。

雑草イネを見つけたら、
右記へご連絡をお願いします。

お問い合わせ先
長野農業農村支援センター
TEL:026-234-9536

